

※最新版は、

https://www.nise.go.jp/nc/report_material/research_results_publications/leaf_series
から直接ダウンロードできます。



特別支援教育リーフ Vol.6

活用してみよう、「センター的機能」



特別支援学校の「センター的機能」を活用してみませんか？

通常の学級や特別支援学級に在籍する障害のある子供等の指導・支援について悩んだり、困ったりした時には、地域にある特別支援学校の「センター的機能」を活用し、障害のある子供等の教育活動の充実を図っていきましょう。「センター的機能」を活用するためには、まずは、勤務校の特別支援教育コーディネーター、管理職等に相談して、特別支援学校に依頼しましょう。

- ◆障害のある子供等の指導・支援に悩んだり、困ったりして、解決策が見つからない時には、地域にある特別支援学校の「センター的機能」を活用してみましょう。
- ◆「センター的機能」を有効に活用するために、特別支援学校の担当者と協働して、課題を解決していきましょう。

障害のある子供の指導・支援等に困った時は

教室の中で、「思い通りにならないと癇癢を起して友達とトラブルになってしまう」「こだわりが強く、特定の行為がやめられない」「読み書きに課題がある」等の子供の指導・支援について、相談する場所が見当たらず、悩みを抱えていませんか。そのような時には、一人で悩まず、地域の特別支援学校のセンター的機能を活用してみましょう。

特別支援学校では、地域の小・中学校等の要請に応じて、必要な助言等を行う「センター的機能」が、役割の一つになっています。「センター的機能」では、「教員、保護者の相談支援」「特別支援教育に係る情報提供」「障害のある子供への指導・支援」「教員に対する研修」「教材教具の提供」等が行われています。地域の特別支援学校の「センター的機能」の情報は、教育委員会、特別支援学校のホームページ等を検索してみましょう。

●見えにくさのある子供の相談

見えにくさのある子供にどのように支援をすれば良いかわからない。

特別支援学校（視覚障害）のセンター的機能を活用して子供の視力の実態を把握し、マルチメディア教科等の学用品、ルーペ、拡大読書器等の視覚補助具の活用、座席の位置等の助言を受けました。

●集中力が続かない子供の相談

知的障害のある子供が、特別支援学級の授業で集中するための工夫を相談したい。

特別支援学校（知的障害）のセンター的機能を活用してつまずきの要因を把握した上で、カード等の視覚情報を活用し、活動の流れを提示することや言葉掛けを具体的に短く伝える等の助言を受けました。

●書字に課題のある子供の相談

肢体不自由のある子供の書字の困難さに対応する支援について相談したい。

特別支援学校（肢体不自由）のセンター的機能を活用して子供の実態に応じた補助具の貸し出しや、パソコンやタブレット型情報端末、音声入力アプリ等について紹介してもらいました。

特別支援学級（難聴）に在籍する子供への支援の例

4月から聴覚障害のある A さんが入学することになり、校内に新しく難聴特別支援学級（以下、「難聴学級」）が設置されることになりました。

これまで通常の学級担任の経験しかなく、初めて聴覚障害の子供の指導をすることになりました。不安な気持ちを、特別支援教育コーディネーターに相談したところ、Aさんが就学前に通っていた特別支援学校（聴覚）の「センター的機能」を活用することを提案してくれました。特別支援学校（聴覚）の担当者が来校し、難聴学級の授業参観後に、次のような助言を受けました。

【基本的な配慮事項の例】

- ◇子供の正面から、表情や口元が見えるようにして話しましょう。
- ◇「分かりましたか」ではなく、「何が分かったか」を確認しながら話しましょう。
- ◇発問、指示、子供の発言等を、板書して、視覚的に示しましょう。
- ◇写真や図、イラスト等の教材を活用して、イメージがもてるようにしましょう。



助言を受けた
特別支援学級担任

具体的なアドバイスを受けて、子供の理解が深まりました。Aさんが、安心して学校生活を送れるように、「基本的な配慮事項」を通常の学級担任に共有していきます。

難聴の子どもと一緒に勉強している先生方へ 難聴学級	
難聴の子どもは、聴力と読話力（話し手の口元、表情を見て言葉を読み取る力）を合わせて話を聞き取っています。しかし、常に100%聞こえ、理解できる訳ではなく、授業に参加するには、周囲の適切なサポートが欠かせません。 これは、指導に当たっての基本的な配慮事項です。是非チェックしてみましょう。 学年（ ） 名前（ ） Aできている Bあと少し C要改善	
基本的な配慮事項	チェック
1 【補聴援助システム等の使用】 マイクを口元から15cmくらいのところに付け、スイッチを入れている。（補聴器や人工内耳は、2m 離れると、話者の声が聞こえにくくなる）	
2 【授業者の話し方】 窓側に立たないで話している。 正面から、表情や口元が見えるようにして話している。 （歩きながら話したり逆光だったりすると、表情、口、唇、舌などがよく見えず読話しにくい）	

図1. 難聴の子どもと一緒に勉強している先生方へ 難聴学級（一部抜粋）

また、「聴覚障害支援ガイド」、「難聴の子どもと一緒に勉強している先生方へ 難聴学級」（図1）、「難聴の子どもと一緒に勉強している先生方へ 通常の学級・交流学級」等（※参考文献参照）の具体的な情報を提供してくれました。資料等を通常の学級の先生方と共有し、きこえに配慮が必要な子供の理解の輪を広げていきます。

「センター的機能」を活用し、協働して課題解決するために

「センター的機能」を充実したものにするために、特別支援学校の担当者と協働して、課題を解決していきましょう。例えば、支援を受けた後に、子供の変容や教員の特別支援教育に関する理解の状況について、担当者に現状を報告することも大切です。担当者も自分のアドバイスが活かされていることを実感することになります。「センター的機能」を活用した相談がきっかけとなり、障害のある子供等への理解が深まり、校内支援体制の充実が望めます（図2）。そして、地域の特別支援教育を推進する仲間として連携（つながり）していくことが大切になります。

気になることがあったら、一人で悩まず、まずは、近隣の特別支援学校に連絡してみましょう。

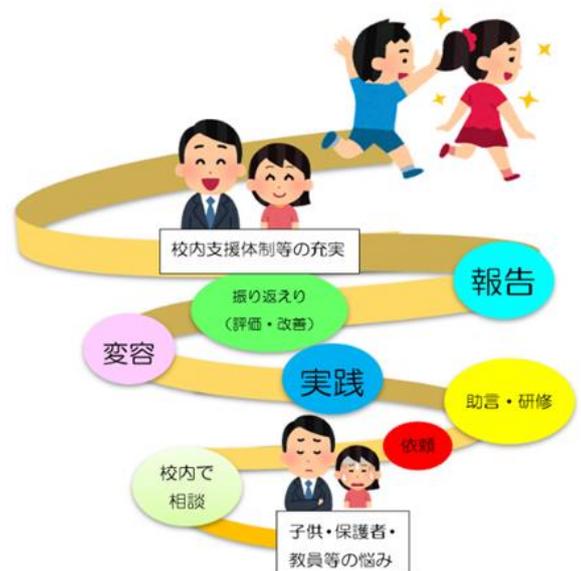


図2. 継続した相談

☆さらなる理解のために☆

小・中学校等の教員を対象とした特別支援教育に関する研修を実施するために

現在、小・中学校等では、全ての教員が、特別支援教育を十分に理解して、子供にかかわることが求められています。

特別支援学校では、「センター的機能」の一環として、小・中学校等の教員を対象とした特別支援教育に関する研修を実施しています。

例えば、「支援を必要とする子供の理解」「特別支援学級における自立活動の授業づくり」「通常の学級における合理的配慮」「障害のある子供の保護者支援」等、各学校のニーズに応じて、研修を一緒に考えてくれます。

また、ある特別支援学校では、小・中学校等の教員を対象に、オンラインを活用した研修会を開催しています。そこでは、PowerPoint を活用した教材を紹介し、研修に参加した小・中学校等の教員と特別支援学校の教員が、オンライン上で一緒に教材を作成しました。このような活動を通して、学校間で顔が見える関係を築き、気軽に相談できる雰囲気づくりに努めています。



研修に参加した教員

オンライン研修は、初めは緊張しましたが、特別支援学校の先生と一緒に教材を楽しく作ることができました。また、いろいろな面で相談したいと思いました。

「センター的機能」を活用した研修を計画する時に、特別支援学校の担当者に任せきりにするのではなく、研修の目的や意義について、校内で十分に共通理解を図ることが、大切になります。また、必要に応じて、担当者に校内の様子を参観してもらったり、教員の特別支援教育に関するニーズについて情報提供したりして、研修を計画していきましょう。

【校内の理解研修を円滑に行うために】

- 校内研修を企画する担当者は、どのような研修内容にするか、企画段階から特別支援学校のセンター的機能担当者と協議して、研修を計画してみましょう。
- 教員のニーズを事前に把握し、研修の内容に合わせてグループを編成したり、付箋等を準備したりして研修が円滑に進むようにしましょう。

<参考情報>

○秋田県立聴覚支援学校 「きこえとことば支援センター」について

きこえとことばに支援を要する方や保護者、学校の先生方など、外部の方々にとって、より相談しやすい情報が提供されています。本文中(図1)の「難聴の子どもと一緒に勉強している先生方へ 難聴学級」等も掲載されています。

